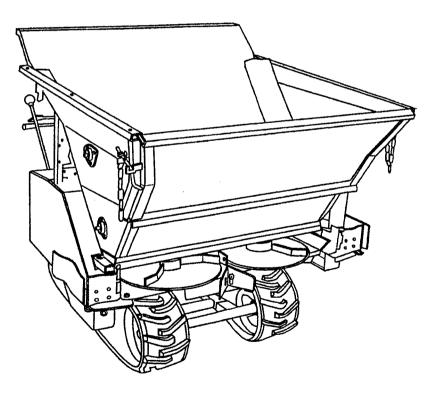
# 小型堆肥散布車

取扱説明書

PPPF



ご使用の前に必ずお読み下さい。

atex

## はじめに

- ●このたびは、本製品をお買いあげいただき、まことにありがとうございます。
- ●この取扱説明書は、本製品を使用する際にぜひ守っていただきたい安全作業に関する基 本的事項及び、最適な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技 術的事項を中心に構成されています。
- ●本製品を初めて運転される時はもちろん、日ごろの運転・取扱いの前にも取扱説明書を 熟読され、十分理解の上、安全・確実な作業を心がけてください。
- ●この取扱説明書は、いつでも取り出して読むことができるよう大切に保管してくださ い。説明書を紛失・損傷された場合は、速やかにお買上げ先にご注文ください。
- ●本製品を貸与、または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解して いただき、この取扱説明書を本製品に添付してお渡しください。
- ●なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際 には、本書の内容・イラストなどの一部が、本製品と一致しないことがありますので、 ご了承ください。
- ●もし、おわかりにならない点がございましたらご遠慮なく、お買上げ先にご相談くださ 11
- ●取扱説明書の中の ▲ 重要 表示は、次のような安全上、取扱上の重要なことを示して います。よくお読みいただき、必ず守って下さい。

表示	重 要 度
▲危険	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるもの を示しております。
▲警告	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるも のを示しております。
▲注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示し ております。
重要	商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。

**▲注意** ●本製品は、圃場内作業車ですので、公道及び公道とみなされる道路 での運転はできません。当該道路上での運転による事故及び違反に つきましては、責任を負いかねます。

# 目 次

重要安全ポイントについて 安全表示ラベルの注意		3 <b>~</b> 5
安全のポイント	}	6
安全な作業をするために		6 <b>~</b> 17
保証とサービス	}	18
各部の名称とはたらき	}	19
各部の名称	·	20~23 24·25
作業の準備 使用前の点検について	<b></b>	26
		20
作業のしかた 運転操作の要領		27
運転操作の要領		35 36~41 42 43~48
手入れと格納	}	56.57
不調時の対応のしかた	<b>}</b>	58 <b>~</b> 60
農作業を安全におこなうために		61
一般共通事項 移動機械共通事項	- <b></b>	61~63 64·65
サービス資料		66
主要諸元	<b></b>	68 69
索引		70-71

## 重要安全ポイントについて

1. 坂道で使用するときは、

急停止・急旋回・Uターンは避けてください。

2. 高速走行時の急停止は避けてください。

転倒しないよう、速度を十分に落としてからゆっくりと 停止してください。

3. 積込みをするときは、

最大積載量・最大積載容量以上は積載しないでください。

- 4. エンジンを始動する時は、先に必ず走行・作業クラッチレバーが 「切」位置にあることを確認してください。
- 5. 路肩、軟弱地で使用するときは、 転落・転倒しないように十分注意してください。
- 6. 運転・作業をするときは、 安全カバー類が取り付けられていることを確認してください。
- 7. 点検・調整をするときは、 必ず原動機を止め、機械の停止を待ってください。
- 8. 補助者と共同作業を行うときは、 合図をし、安全を確認してください。

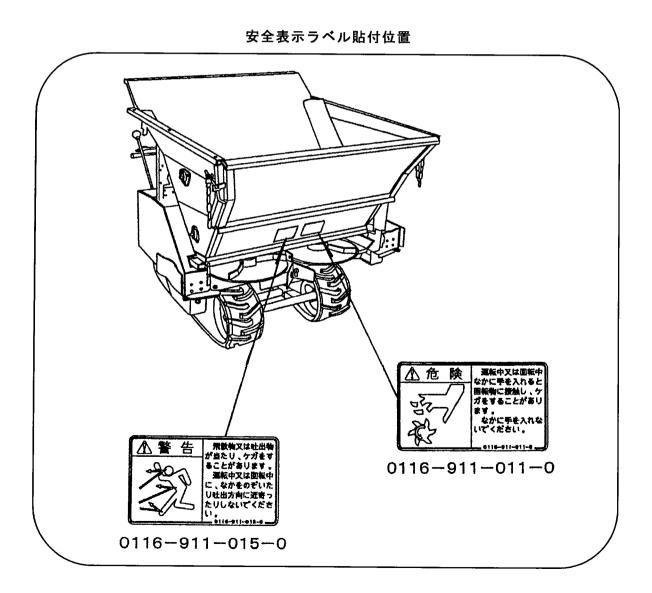
この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは 上記の通りですが、これ以外にも本文の中で安全上是非守っていただきたい 事項を ▲ 重要 を付して説明の都度取りあげております。

よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願い致します。

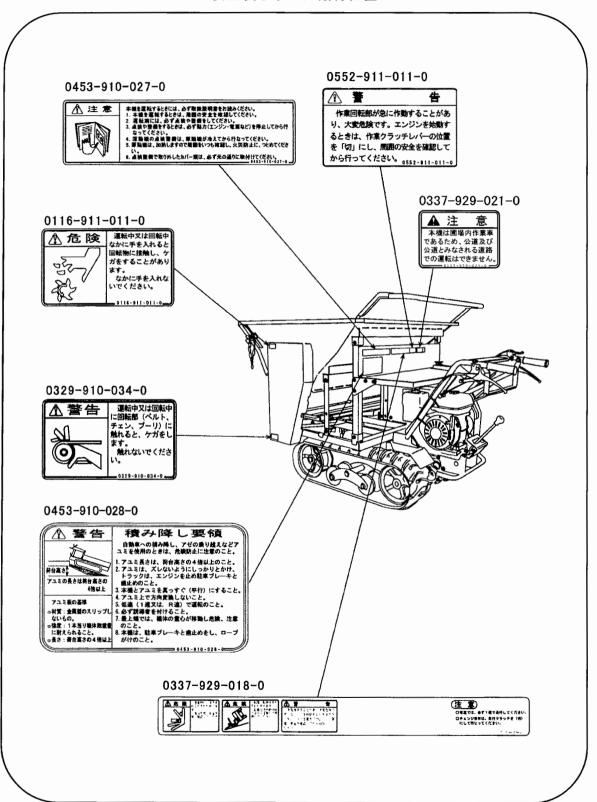
## 安全表示ラベルの注意

- ■本機には、安全に作業していただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。 必ずよく読み、これらの注意に従ってください。
- ■安全表示ラベルを破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しい ラベルに貼りかえてください。安全表示ラベルは、お買い上げいただいた販売店 ・特約店へ注文してください。
- ■汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。
- ■安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に安全表示ラベルも お買い上げいただいた販売店・特約店へ注文してください。

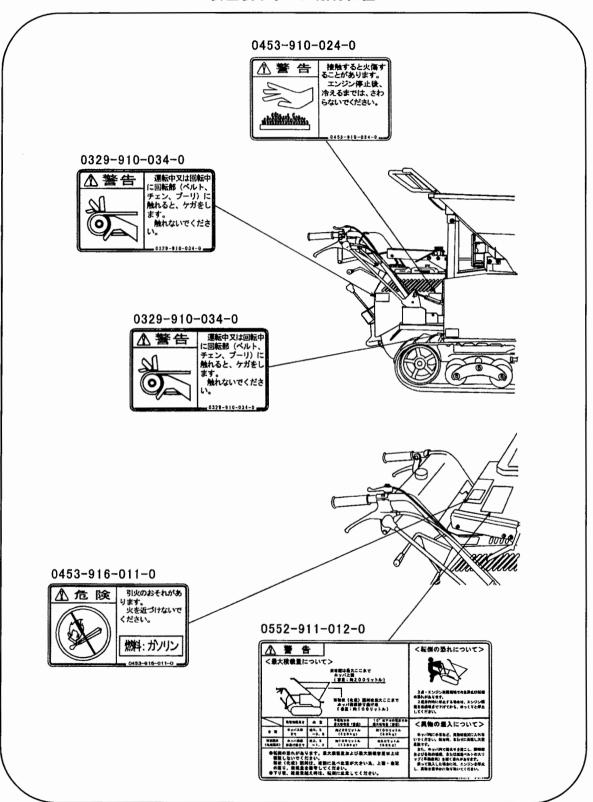


-3-

#### 安全表示ラベル貼付位置



#### 安全表示ラベル貼付位置



## 安全のポイント

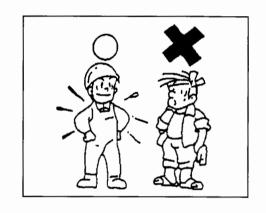
## 安全な作業をするために

本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい 事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行ってください。

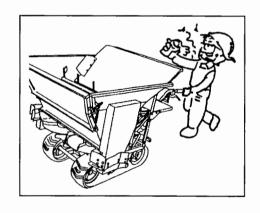
#### ■運転者の条件

(1) 服装は作業に適したものを着てください。 服装が悪いと、衣服が回転部に巻き込まれ たり、靴がスリップしたりして大変危険で す。

ヘルメットや適正な保護具も着用して ください。

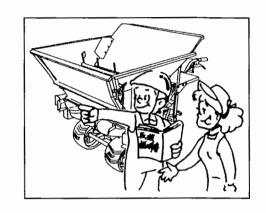


(2) 飲酒時や過労ぎみの時、または妊娠している人、子供など未熟者は絶対に作業をしてはいけません。作業を行うと、思わぬ事故を引き起こします。作業をする時は、必ず心身とも健康な状態で行ってください。

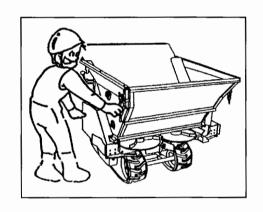


### ■作業を開始する前に

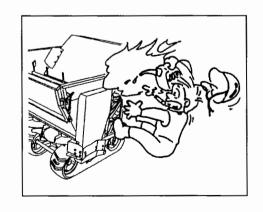
(1) 作業する前に、本書の「取扱説明書」を 参考に必要な点検を必ず行ってください。 点検を怠るとブレーキの効きが悪かったり、 クラッチが切れなかったりして走行中や作 業中の思わぬ事故につながります。



(2) 安全カバー類が外されたままになっていないか確認しましょう。外されたままエンジンをかけたり、運転作業を行うと危険な部分が露出して大変危険です。



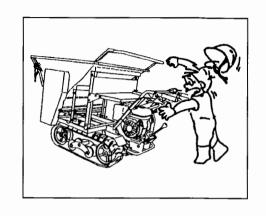
(3) 燃料の補給や潤滑油の給油・交換をする ときは、必ずエンジンが停止した状態で行 い、くわえタバコなどの火気は厳禁です。 守らなかった場合、火災の原因になります。



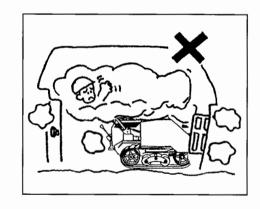
#### ■エンジンの始動と発進は

(1) エンジン始動時は、走行クラッチレバー 及び作業クラッチレバーを「切」位置に、 また発進時は、各レバー位置と周囲の安全 を確かめてゆっくりと発進してください。 急発進は危険です。

走行クラッチレバーが「入」位置に入っていると急発進、作業クラッチレバーが 「入」位置に入っていると作業部が急に回転し、危険です。

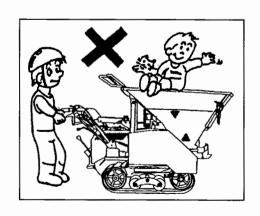


(2) 室内でエンジンをかけるときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。 換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変 危険です。

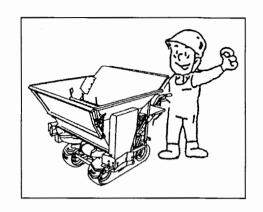


#### ■走行するときは

(1) いかなる場合も、荷台などに人や動物を 乗せないでください。作業の際はもちろん、 走行中の急旋回、重心の移動等により大変 危険です。

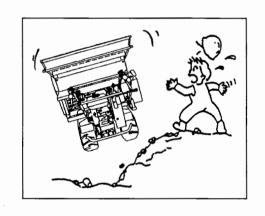


(2) 停止時は、速度を十分に落としてから停止してください。

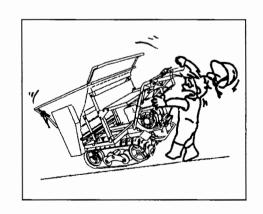


(3) 凹凸の激しい所・軟弱地盤・側溝のある 道や両側が傾斜している道などで走行する ときは、速度を十分に落とし安全な速度で 運転してください。衝突・転落事故を引き 起こす恐れがあり大変危険です。

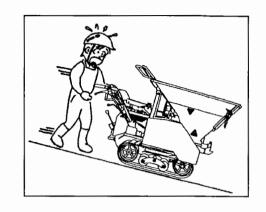
特に段差がある所を前進で降りる時は、前方への転倒に注意してください。



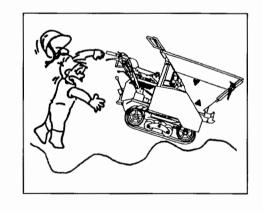
(4) 傾斜地は、低速で、まっすぐに昇り降りしてください。斜面をよこぎったり、旋回をすると転倒する恐れがあります。特に下り坂では、曲がろうとしてサイドクラッチレバーを切った場合、切った側が流され、思う方向と逆に進むことがあり大変危険です。



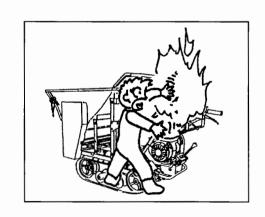
(5) 坂道では、低速でゆっくりと、また下るときはエンジンブレーキをかけてください。決して、変速レバーを「中立」位置(ニュートラル)で、坂道を降りないでください。本機が加速し、衝突・転倒事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。また、ブレーキの多用は、ブレーキを傷めるとともに、スリップやブレーキの効きが悪くなる原因となり、大変危険です。



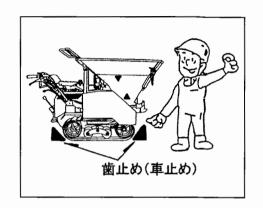
(6) 凹凸の激しい道路での高速走行はしないでください。路面状態、積載状態に応じた安全な速度で走行してください。これを怠ると、衝突・転倒事故を引き起こす恐れがあります。



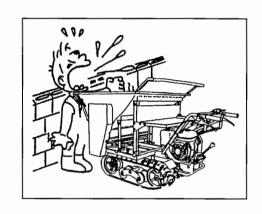
(7) 草やワラ等可燃物の上に止めないでくだ さい。排気管の熱や、排気ガスなどにより 可燃物に着火し、火災の原因となります。



(8) 停車場所は広く硬い所を選んでください。 また、本機から離れるときは、走行クラッチレバー、及び作業クラッチレバーを「切」 位置にしてエンジンを停止し、歯止め(車 止め)をしてください。走行クラッチレバーを「走行」位置にしておくと、機体が自 然に動きだすなど、大変危険です。

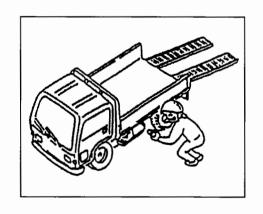


(9) わき見運転や無理な姿勢で運転をしてはいけません。進行方向、特に後進時は、周囲の障害物にはさまれる恐れがあります。 本機は、走行クラッチレバーが狭圧防止装置となっておりますが、十分注意してください。

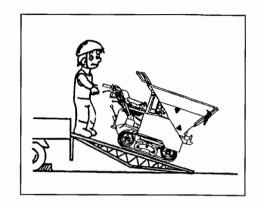


#### ■積込み・積降ろし

(1) トラックはエンジンを止め、動かないよう駐車ブレーキ・歯止め(車止め)をしてください。これを怠ると積込み・積降ろし時にトラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあります。

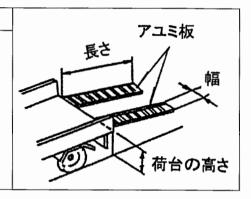


(2) 積込み・積降ろしは、強度・幅・長さの 十分あるスリップしないアユミ板を使用し、 直進性を見定め、微速にて行ってください。 アユミ板上での方向修正は転落事故の原因 となり大変危険です。

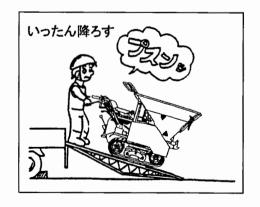


#### < アユミ板の基準 >

- ●長さ…車の荷台の高さの4倍以上
- ●幅 …本機クローラの 1.5 倍以上
- ●強度…車体総重量の 1.5 倍以上 (1本当り)
- ●すべらないよう処理されていること。

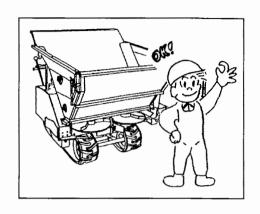


(3) 万一、途中でエンストした場合は、すぐにブレーキをかけ、その後、徐々にブレーキをゆるめ、一端地面まで降ろし、エンジン始動方法に従い、改めてエンジンを始動させてから行ってください。

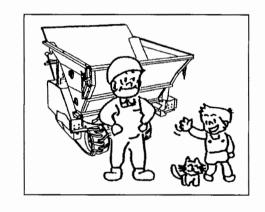


### ■作業中は

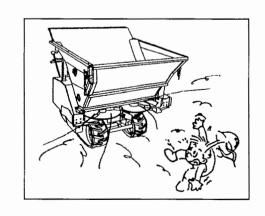
(1) 積載制限を守ってください。過積載は、 転倒や操作ミスを引き起こし大変危険です。



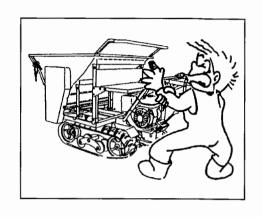
(2) 作業を開始するときは必ず周囲の安全を確認し、作業中は作業者以外の人、特に子供を近づけないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。



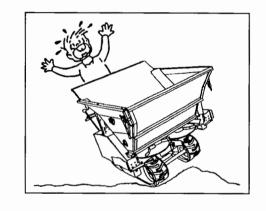
(3) 散布作業中は、回転部 (スピンナ、及び バケット内) をのぞいたり、手や体を入れ たりしないでください。飛散物又は、吐出 物が当り、傷害事故の原因となり大変危険 です。



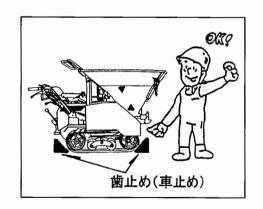
(4) 運転中は、回転部やエンジン・マフラー 等の高温部など危険な箇所には手や体を触 れないでください。傷害事故の原因となり 大変危険です。



(5) 溝の横断や畦越えをするときは必ずアユ ミ板を使用し、微速にて溝・畦と直角にゆ っくりと走行してください。これを怠ると、 脱輪やスリップ等により転倒する恐れがあ り大変危険です。

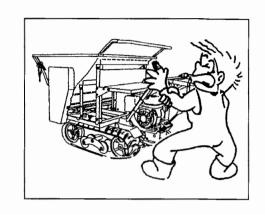


(6) 本機から離れる時は、走行クラッチレバー、及び作業クラッチレバーを「切」位置にして、エンジンを停止し、歯止め(車止め)をしてください。不意に動いて重大な事故になる恐れがあります。

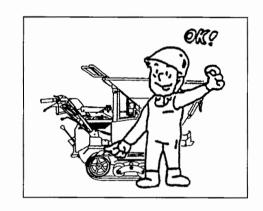


### ■点検整備は

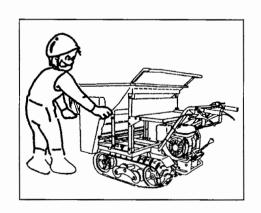
(1) エンジンを切ってすぐに、点検整備をしてはいけません。エンジンなどの過熱部が 完全に冷えてから行ってください。怠ると、 火傷などの原因となります。



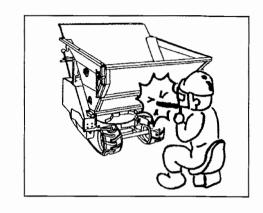
(2) 機械の掃除・点検整備をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて行ってください。思わぬ事故をまねく恐れがあります。



(3) 点検整備で取り外した安全カバー類は、 必ず元の通りに取り付けてください。回転 部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の 原因となり大変危険です。

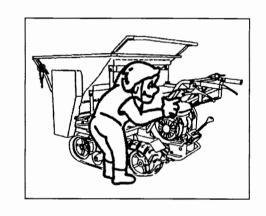


(4) 機械の改造は絶対にしないでください。 機械の故障や事故の原因になり大変危険で す。

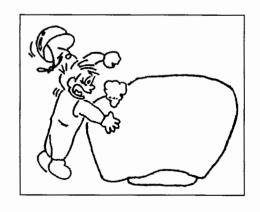


### ■保管・格納は

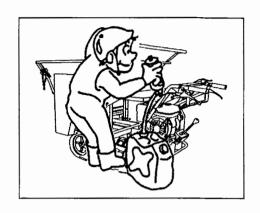
(1) 動力を停止し、機体に付着したドロやゴ ミ等をきれいに取り除いてください。特に マフラーなどエンジン周辺のゴミは火災の 原因となります。必ず取り除いてください。



(2) 子供などが容易に触れないようにカバーをするか、格納庫に入れて保管してください。カバー類をかける場合は、高温部が完全に冷えてから行ってください。熱いうちにカバー類をかけると火災の原因となります。



(3) 長期格納するときは、燃料タンクや気化 器内の燃料を抜き取りましょう。燃料が変 質するばかりでなく、引火などで火災の原 因となり大変危険です。



## 保証とサービス

#### ■新車の保証

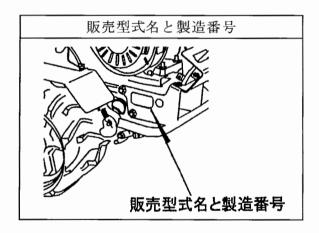
この製品には、㈱アテックス保証書が添付されています。詳しくは、保証書をご覧ください。

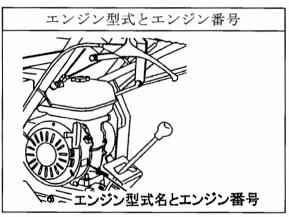
### ■サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点、及びサービスに関するご用命は、お買い上げいた だいた販売店・特約店または指定サービス工場へお気軽にご相談ください。

#### その際、

- (1) 販売型式名と製造番号
- (2) エンジン型式とエンジン番号 を併せてご連絡ください。





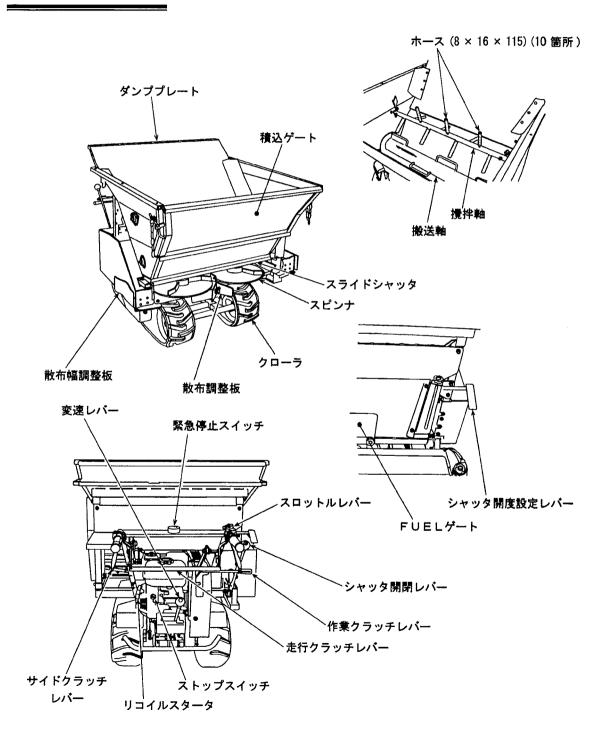
#### ■補修用部品供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただくこともあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給 年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格につ いてご相談させていただきます。

## 各部の名称とはたらき

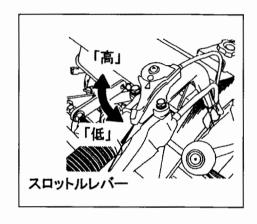
## 各部の名称



## 操作レバーの名称とはたらき

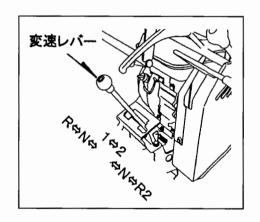
#### ■スロットルレバー

エンジンの回転数を変えるレバーです。エン ジン回転が最高のときに最大のトルクを発生し ます。



#### ■変速レバー

前進2段・後進2段の変速ができます。 変速は、走行クラッチレバーを「切」位置に 戻し、車両を完全に停止させてから行ってく ださい。



### 重要

- ●変速レバーの無理な操作はトランスミッション内部破損の原因となります。絶対にしないでください。
  - ●走行中の変速レバー操作は絶対にしないでください。ギヤが破損し、決定 的なダメージを受けてしまいます。
  - ●変速レバーの操作をする時は、走行クラッチレバーを「切」位置にし、車両が完全に停止してから行ってください。
- ●変速レバーがスムーズに切換できない場合は、走行クラッチレバーの「入」 ・「切」操作を数回繰り返してから、再度変速レバーを操作してください。

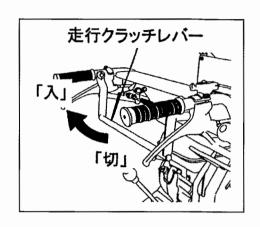
#### ■走行クラッチレバー

走行クラッチレバーを手前に引き上げると、 エンジンの回転がベルトによりトランスミッ ッションに伝達されます。

路面状態・積載量等の条件にあった変速位置 を選んで走行してください。

また、走行クラッチレバーを「切」位置に入 れるとブレーキが効きます。

エンジン停止後は駐車ブレーキとして使用 します。



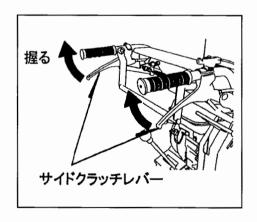
重要●●走行クラッチレバーは作業クラッチレバーと連動しています。 通常それぞれ単独で作動しますが、安全の為、走行・作業クラッチレバー 共に「入」状態の時のみ、走行クラッチレバーを「切」位置に入れると、 同時に作業クラッチレバーも「切」位置となります。

#### ■サイドクラッチレバー

旋回側のサイドクラッチレバーを握ると旋回 します。この時、レバーの握り加減で旋回半径 が変わります。

旋回は十分に速度を落として行ってください。 また、積荷が重くなると、旋回時の負荷や操作 荷重が大きくなりますので注意してください。

また緊急時には、両方のサイドクラッチレバー を同時に引くとブレーキがかかり、機体が停止 します。



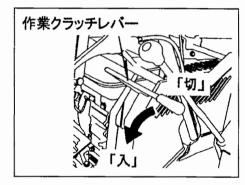
#### ■作業クラッチレバー

**▲ 6 16 16 ●**作業クラッチレバーを操作すると、スピンナ、および搬送軸・ 攪拌軸等、回転部が高速回転します。

> 周囲の安全を確認し、作業中は作業者以外の人、特に子供を近 づけないでください。

- ●運転中はスピンナ、および搬送軸・攪拌軸等を覗いたり、手や 体を入れたりしないでください。
- ●圃場以外では、作業クラッチレバーを「切」位置にして走行し てください。

作業クラッチレバーを「入」位置に入れると、 エンジンの回転がベルトにより作業部に伝達さ れ、スピンナ、および搬送軸・攪拌軸を作動 させることができます。

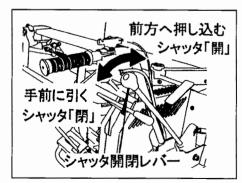


重要●●作業クラッチレバーは走行クラッチレバーと連動しています。 通常それぞれ単独で作動しますが、安全の為、走行・作業クラッチレバー 共に「入」位置の時のみ、走行クラッチレバーを「切」位置に入れると、 同時に作業クラッチレバーも「切」位置となります。

#### ■シャッタ開閉レバー

ホッパ下部のシャッタの開閉量を調整する レバーです。それにより肥料の散布量を調整 します。

レバーを前方へ押し込むとシャッタが開き (多く排出)、手前に引くとシャッタが閉じ (少なく排出、または排出停止)ます。

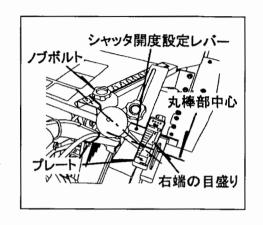


重要 ●使用する肥料の種類・状態、作業状況等により、シャッタの開き量が同じ でも肥料の散布量が変わります。状況に応じて都度調整してください。

#### ■シャッタ開度設定レバー

シャッタ開閉レバーの動き量(シャッタの開き量)を一定に保つ為のレバーです。

通常は手前にいっぱいまで引いた状態で使用します。シャッタ開き量の目安として、プレート右端の目盛り(10~30の範囲)にシャッタ開閉レバーの丸棒部中心を合せます。またそれ以上にシャッタを開けたい場合は、ノブボルトを緩め、シャッタ開度設定レバーを所定の位置まで動かし、ノブボルトを締めて固定して

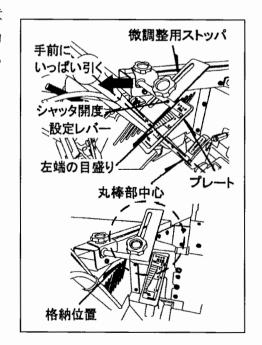


ください。ストッパとなりシャッタ開閉レバーの動き量(シャッタの開き量)を その位置で止める事ができます。

粒状肥料を使用される場合は、微妙な調整が必要となります。この場合、シャッタ 開度設定レバーを手前にいっぱいまで引いた状態で、プレート左端の目盛り(0~ 10の範囲)にシャッタ開閉レバーの丸棒部中心を合せます。その範囲内でシャッ タ開閉レバーを自由に動かしながら散布量を調整してください。

この時、微調整用ストッパの固定位置を任意 に変更しておく事で、シャッタ開閉レバーの動 き量(シャッタの開き量)を、その位置で止め る事ができます。

尚、微調整用ストッパを使用しない場合は、 他の作業の邪魔にならないよう、右図の通り 格納位置に固定しておいてください。

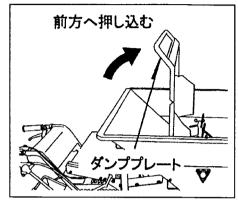


## その他の部分の名称とはたらき

#### ■ダンププレート

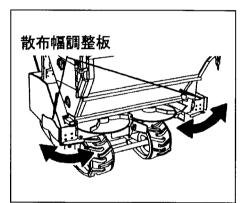
水分を多く含んだ堆肥等を使用される場合、 うまく排出されず、傾斜の緩いホッパ後部へ 残ってしまうことがあります。

その場合、ダンププレートを前方へおこし、 残った堆肥を強制的にホッパ下部へ落とし、排 出(散布)をしてください。



### ■散布幅調整板

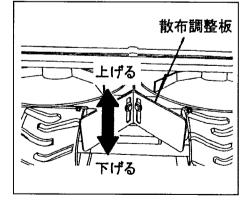
肥料の散布幅を調整するのに使用します。 固定用のチョウボルトを緩め、散布幅調整板の 角度を変え、任意の位置で固定してください。 散布幅を自由に設定することができます。



#### ■散布調整板

肥料を散布する場合、排出量、および散布幅 の設定によっては、どうしても両端と中央部の 散布量にムラが出来てしまいます。

その場合、散布調整板を上下することで中央 部の排出量を調整し、ムラの少ない均一散布を 行ってください。

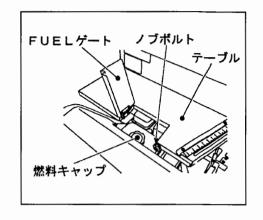


散布調整板を上げる……中央部排出量少なく 散布調整板を下げる……中央部排出量多く

#### ■FUELゲート

テーブル手前のノブボルトを緩め、FUEL ゲートを起こし、エンジンの燃料キャップを 開けると、給油が可能となります。

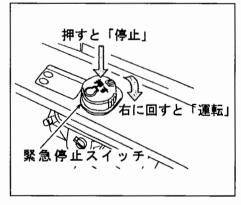
※給油のしかたについては、47ページをご参 照ください。



重要 ●給油作業時以外は、必ずFUELゲートを閉じた状態にしておいてくださ い。作業の邪魔になったり、FUELゲート、及びテーブルの破損の恐れ があります。

### ■緊急停止スイッチ

スイッチを押して右に回すと「運転」に入り ます。「運転」の状態でスイッチを押すと「停 止」になります。



- **重要 ●エンジン始動時は、緊急停止スイッチが「運転」位置にあることを確認** してください。
  - ●緊急時に、緊急停止スイッチを押せばエンジンが停止し、作業装置も停 止しますが、そのままの状態では機体にブレーキがかかっていませんの で、すみやかに走行クラッチレバーを「切」にしてください。

## 作業の準備

## 使用前の点検について

### ■始業点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。始業点検 は毎日欠かさず行ってください。

点検は次の順序で実施してください。

(1)	前日、異常のあった箇所
(2)	車体を確認して
	●エンジンオイルの量、及び汚れ47・48ページ
	●燃料フィルタの水、沈殿物の点検47 ページ
	●ギヤボックスオイルの量、及び汚れ46・47ページ
	●走行ベルトの張り具合、損傷48・49ページ
	●クローラの張り具合、損傷50 ページ
	●エアクリーナの清掃エンジン取扱説明書
	●燃料は十分か、燃料キャップの締め付け47ページ
	●車体各部の損傷、及びボルトやナットの緩み
	●駐車ブレーキの作動21·50 ページ
(3)	エンジンを始動して
	●スロットルレバー作動
	●排気ガスの色、異常音
(4)	徐行しながら
	●サイドクラッチレバーの重さ、戻り21・49ページ
	●走行クラッチレバーの作動21・48 ページ
	●走行部の異常音
(5)	作業クラッチレバーを操作して
	●回転部(スピンナ・搬送軸・攪拌軸)の作動、及び停止22・51ページ
	●シャッタの開閉動作23 · 53~55 ページ

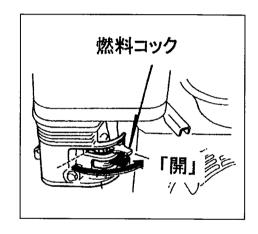
## 作業のしかた

## 運転操作の要領

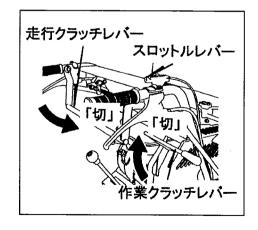
#### ■エンジンの始動

**▲警告** ●急発進することがあり大変危険です。エンジンを始動するとき は、走行クラッチレバー、及び作業クラッチレバーを「切」位 置にし、周囲の安全を確認してから行ってください。

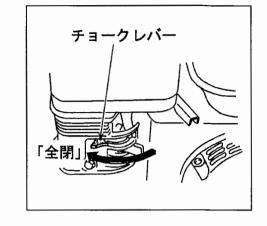
(1) 燃料の量を確認し、燃料コックを開けます。



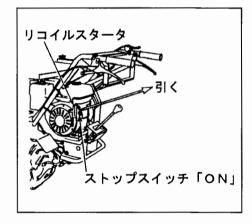
- (2) 走行クラッチレバー、及び作業クラッチレ バーを「切」位置にします。
- (3) スロットルレバーを中回転以上に上げます。



- (4) チョーク操作を行います。
  - ●冷機時はいっぱい操作(全閉)します。
  - ●暖機時は半分程度操作します。 (または操作なし)
    - ※エンジン始動後、チョークレバーは 元の位置に戻してください。



- (5) ストップスイッチを「ON」にします。
- (6) リコイルスタータを一気に引きます。この ときリコイルスタータは引ききらないように してください。また、ゆっくりと元に戻して ください。



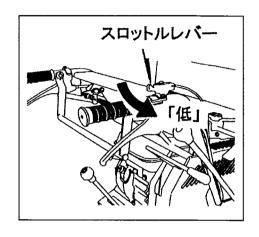
●暖機運転中は必ず走行クラッチレバー及び作業クラッチレバー を「切」位置にしてください。これを怠ると、自然に動きだし 大変危険です。

- 重要 ●エンジンの暖機運転をしないで走行・作業しますと、エンジンの寿命が 短くなります。1~2分程度の暖機運転をしてください。
  - ●エンジン始動時は、緊急停止スイッチが「運転」位置にあることを確認 してください。「停止」位置にあると、エンジンは始動しません。

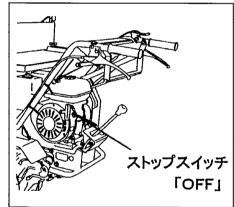
#### ■エンジンの停止

# ▲警告 ●接触すると火傷することがあります。エンジン停止後、冷えるまではさわらないでください。

(1) スロットルレバーを戻して、しばらく低速運転をしてください。



- (2) エンジンを停止します。
  - ●ストップスイッチを「OFF」にしてエン ジンを停止します。



- (3) 燃料コックを閉じてください。
- (4) 万一、故障しエンジンが停止しないときは、 燃料タンク側面にある燃料コックを閉じて、燃 料がなくなるまで放置してください。



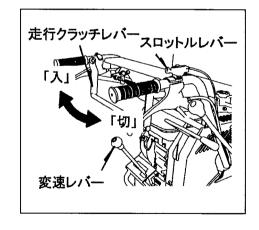
- 重要●●エンジンを高回転のまま停止しないでください。
  - ●運転後はアイドリング回転で1~2分間程、無負荷運転を行ってから エンジンを停止してください。特に長時間運転後は、アイドリング回 転で2~3分間程、無負荷運転を行ってからエンジンを停止してくだ さい。

#### ■発進のしかた

- **▲ 危 除** ●転落・転倒する恐れがあります。路肩付近や軟弱地では十分注 意して使用してください。
  - ●障害物に、はさまれる恐れがあります。進行方向の安全を常に 確認してください。

**▲警告** ●運転中又は、回転中に回転部(ベルト・プーリ)に触れるとケ ガをします。触れないでください。

- (1) 走行クラッチレバーが「切」位置にあるこ とを確認します。
- (2) 変速レバーを任意の位置に合せます。
- (3) 走行クラッチレバーをゆっくりと「入」位 置へ入れると発進します。
- (4) スロットルレバーを操作して、走行速度を 調整します。



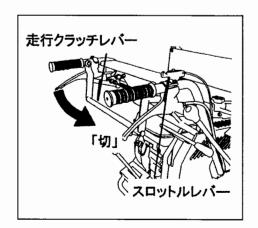
**重要 ●エンジン始動直後や積載・路面状態により、アイドリングではエンジ** ンが止まり、発進できないことがあります。発進時には、状況に応じ てエンジン回転数を上げてください。

#### ■旋回のしかた

旋回のしかたについては、 $21 \cdot 32 \sim 34$  ページをご参照ください。

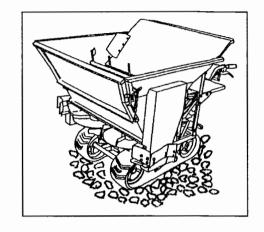
#### ■停車・駐車

- ▲警告 ●緊急時以外は、急ブレーキをかけたり、サイドクラッチレバー 操作による急停止(21ページ参照)をしないでください。 速度を落としてから停止してください。車体やギヤボックスに 負担がかかり、車両の寿命に影響するばかりでなく、転倒の恐 れがあります。
  - ●駐車・停車をするときは、必ず駐車ブレーキをかけてください。
  - ●車両から離れるときは、駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止 し、歯止め(車止め)をしてください。また止める所は、広い 平坦な地面の固い場所を選んでください。車両が動きだしたり して大変危険です。
  - ●車両を草やワラなど可燃物の近くや上に止めないでください。 排気管の熱や、排気ガスなどにより可燃物に着火し、火災の原 因となる恐れがあります。
- (1) 走行クラッチレバーを「切」位置にします。
- (2) スロットルレバーを「低」位置にし、エンジ ン回転を下げます。
- (3) エンジンを停止させてください。 (29・30ページ参照)

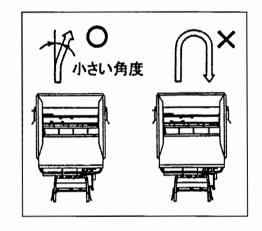


#### ■ゴムクローラへの注意

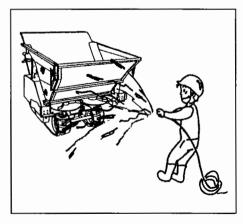
**重要** ●鉄道の線路敷のような、小石がたくさ んある場所では、その場旋回のような 小回りターンをすると、スプロケット とクローラの間に石が入り、クローラ 等が損傷する恐れがあります。



重要 ●砂利道のような、小石がたくさんある 場所では、急ターンや半径の小さい蛇 行運転は避け、直進や小さい角度の方 向転換の運転をするよう、注意してく ださい。

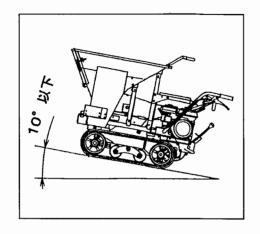


- 重要 ●湿田等の軟弱地で走行した後、スプ ロケットの中に泥やワラなどの異物 が残っている場合には、水洗い等で 取り除いてください。
  - ●泥等が乾いて固まった場合には、走 行中の土や泥がスプロケットから抜 けなくなり、クローラの損傷の恐れ があります。
  - ●使用後は、機械をきれいに清掃して ください。

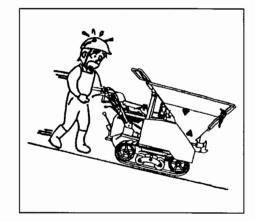


### ■坂道での運転

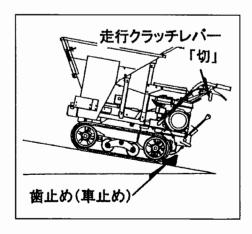
(1) 本機は 10°以下の坂道で使用してください。 坂道での積載量は 42ページを参照



(2) 坂道では、必ず1速、またはR1速で走行し、 Uターン及び変速は避けてください。



- (3) 下り坂での急ブレーキは、避けてください。 特に、堆肥や肥料積載時には、速度を十分に 落としてください。
- (4) 坂道で駐車する場合は、走行クラッチレバー を「切」位置へ入れ、必ず歯止め(車止め)を してください。





- 重要●●転倒の恐れがありますので、急停止や急な旋回をしないでください。
  - ●停止する場合は、スロットルレバーを「低」位置に戻し、走行クラッチ レバーを「切」位置にし、駐車ブレーキを確実にかけてください。
  - ●坂道の状況に応じた安全なスピードで走行してください。スピードを出 しすぎると、思わぬ傷害事故を引き起こす恐れがあります。

## ▲危険

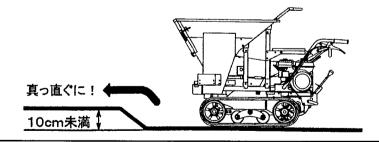
- ●坂道走行中にエンジンが停止した場合には、走行クラッチレバ 一を素早く「切」位置にセットし、駐車ブレーキをかけてくだ さい。
- ●坂道でエンジン停止中に、走行クラッチレバーを「切」位置以 外にすると、ブレーキが解除されて大変危険です。

▲ 注意 ●下り坂での旋回は、平地での旋回時よりも旋回半径が大きくな りますので十分注意してください。

### ■その他走行時の注意

**▲警告** ●凹凸はできるだけ避けて、機体にショックがかからないように してください。もし凹凸越えをする場合は、必ず低速にし、真 っ直ぐに乗り越えてください。

特に、段差前降り時の転倒に注意してください。



## ▲注意

●畦越えや、圃場への出入り等斜面のきつい所(10°以上)や、 段差の高い所(10cm 以上)を走行する時は、必ずアユミ板を 使用してください。

### 散布適合肥料について

### ■散布適合肥料

散布適合肥料について、下表に記します。

肥料の種	肥料の種類					
乾燥完熟堆肥	占	牛糞	0			
************************************	原料	バーク (樹皮)	0			
「印版、表バッ推奏」	111	鶏糞	0			
豚糞	<b>豚糞</b>					
ぼかし堆肥	ぼかし堆肥					
石灰			×			
粒状石灰			×			
ペレット堆肥	ペレット堆肥					
粒状化成肥料(粒径2~	*1 ()					
上記以外(自家製、ブレ	ンド	など)	Δ			

- 〇……散布可能(圃場の条件等により、上手く散布出来ない場合は、 積載量を減らしてエンジンに掛る負荷を減らしてください。) ・表中※1:エンジン最高回転での作業が必要です。
- △……積込み量、散布量の設定等、条件により散布出来ない可能性 があります。
- × · · · · · 散布不可能

### 《肥料についての注意事項》

- ①上表の乾燥完熟堆肥とは、水分含有率60%以下のものです。 (手で握って放した時、固まらずにバラけて落ちる程度のものです。)
- ②粉状のもの、粉混じりのもの、潰すと粉状になるものは散布出来ません。
- ③異物の混じったもの(石や貝殻、ワラくずなど)は、散布出来ません。
- ④肥料自体がダマ(固まり)になっているものは、散布出来ません。
- ⑤上記以外で、見た目は散布出来そうな肥料であっても、その成分等により、 実際には散布出来ない肥料があります。

#### 《その他の注意》

- ①圃場、肥料の条件等により、エンジンの回転数を下げたままでは、上手く 散布出来ない可能性があります。その場合はエンジンの回転を上げて使用 してください。
- ②砂地や軟弱な地盤、傾斜地等では、走行する為だけに、エンジンへ過大な 負荷が掛かるため、上手く散布出来ない可能性があります。その場合は、 積載量を減らすなどして、エンジンに掛る負荷を減らしてください。

## 肥料の積込・散布要領

### ■肥料の積込のしかた

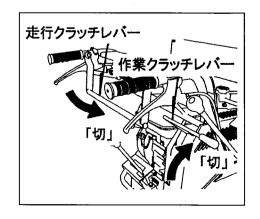
**⚠ 危険** ●運転中、または回転中、スピンナ、および搬送軸・攪拌軸の中に 手を入れると回転物に接触し、ケガをすることがあります。 スピンナ、および搬送軸・攪拌軸の中に手を入れないでください。

- **▲ 警告** ●運転中、または回転中にカバーを開けると、回転物に接触し、ケ ガをすることがあります。カバーを開けないでください。
  - ●飛散物、または吐出物が当り、ケガをすることがあります。運転 中、または回転中に、スピンナ、および搬送軸・攪拌軸の中を覗 いたり、吐出方向に近寄ったりしないでください。
  - ●ホッパ内に小石など、異物は絶対に入れないでください。散布時、 まわりに飛散して大変危険です。また、ホッパ内で、詰まりを起 こし、回転部及び各部の破損、又は伝動ベルトスリップ(早期摩 耗)を招く恐れがあります。誤って投入した場合には、エンジン を停止し、異物を速やかに取り除いてください。

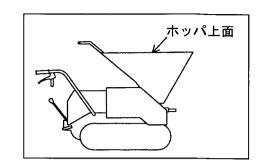
▲注意 ●作業を開始するときは、必ず周囲の安全を確認し、作業中は 作業者以外の人、特に子供を近づけないでください。

## 1. 野積み堆肥の積込み方

(1) 走行クラッチレバー、および作業クラッチ レバーを「切」位置にし、エンジンを停止さ せます。

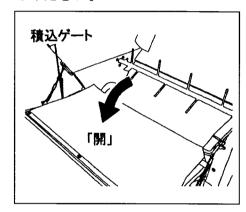


- (2) シャッタ開閉レバーを手前いっぱいに引き、 シャッタが完全に閉じていることを確認し ます。
- (3) ホッパ上部より、スコップ等で堆肥を積み 込んでください。



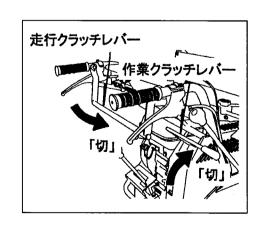
重要 ●ホッパ上面が高く積込み難い場合は、ホッパ前面の積込ゲートを開けて 積込むことで、比較的楽に作業が行えます。

> 但し、その状態で満杯には積込めませんので、ある程度積込んだ後、積 込ゲートを閉じ、残りの積込作業を行ってください。



## 2. 袋入り肥料の積込み方

- (1) 走行クラッチレバー、および作業クラッチ レバーを「切」位置にし、エンジンを停止さ せます。
- (2) シャッタ開閉レバーを手前いっぱいに引き、 シャッタが完全に閉じていることを確認しま す。
- (3) 袋をあけ、ホッパ上部より肥料を投入して ください。



- 重要 ●積込み作業は平坦地で行ってください。転倒の恐れがあります。
  - ●堆肥、肥料は押しつけず、ふっくらと積込んでください。 詰まってうまく排出できない場合があります。
  - ●転倒の恐れがありますので、最大積載量、及び最大積載容量以上は積載し ないでください。特に粒状(化成)肥料は、堆肥に比べ比重が大きい為。 最大積載量、及び最大積載容量の指示を厳守してください。

(40ページ参照。)

### ■肥料の散布のしかた

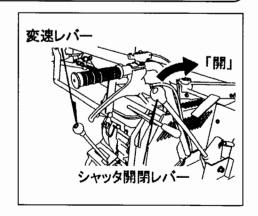
# **A**危険

●運転中、または回転中、スピンナ、および搬送軸・攪拌軸の中に 手を入れると回転物に接触し、ケガをすることがあります。 スピンナ、および搬送軸・攪拌軸の中に手を入れないでください。

- **▲警告** ●運転中、または回転中にカパーを開けると、回転物に接触し、ケ ガをすることがあります。カバーを開けないでください。
  - ●飛散物、または吐出物が当り、ケガをすることがあります。運転 中、または回転中に、スピンナ、および搬送軸・攪拌軸の中を覗 いたり、吐出方向に近寄ったりしないでください。
  - ●下り坂、段差乗越え時は、転倒に注意してください。

▲注意 ●作業を開始するときは、必ず周囲の安全を確認し、作業中は作業 者以外の人、特に子供を近づけないでください。

- (1) 手順に従い、エンジンを始動させます。
- (2) 変速レバーを任意の位置へ入れます。
- (3) シャッタ開閉レバーを操作し、シャッタを 適量開けてください。



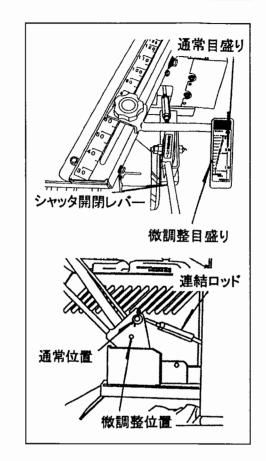
※ シャッタ開度設定レバーはシャッタ開閉 レバーのストッパとなっています。任意の 位置で固定することで、シャッタの開き量 を一定に保つことが出来ます。

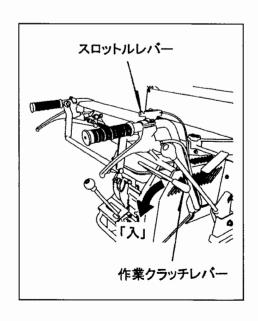
シャッタの開き量はガイド目盛りを参考に してください。(目盛りの数値は、あくまで 目安です。)

※ 使用する肥料の種類によって、右図の通 りシャッタ開閉レバーの連結ロッドの掛け る位置を変更してください。

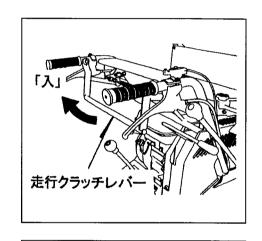
尚、通常位置に掛けた場合は、通常目盛り(シャッタ開度 0~125)の範囲で、微調整位置に掛けた場合は、微調整目盛り(シャッタ開度 0~10)の範囲でシャッタ開度設定レバーを操作してください。但し、微調整位置ではシャッタを全開にできません。全てを排出する場合は、連結ロッドを通常位置に掛け直して排出してください。

- (4) スロットルレバーにて、エンジン回転数を 任意に設定し、作業クラッチレバーを「入」 位置に入れます。
  - ※ シャッタを閉じた状態で先に作業クラッチを「入」位置に入れるとエンスト、もしくは伝動ベルトのスリップをおこす場合があります。手順の通り、必ず先にシャッタを開いておいてください。もし、手順を誤ってエンスト、もしくは伝動ベルトのスリップが発生した場合は、すぐに作業クラッチを「切」位置にし、手順の通り作業をやり直してください。スムーズに排出されはじめます。

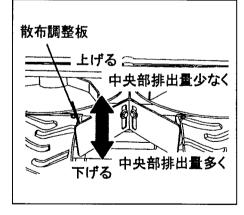




- ※ スピンナ、および搬送軸、攪拌軸の回転数、走行速度はエンジンの回転数と 密に関係しています。したがって、エンジン回転数を下げると、その分、散布 幅、および作業能率の低下につながることを認識しておいてください。
- ※ 堆肥の水分、および粘り気が多いと、うまく排出されません。必ず乾燥完熟堆 肥をご使用ください。(石灰等粉状の肥料、鶏糞等はうまく排出されません。)
- ※ 化成肥料は粒状のものをご使用ください。ペレット状のものは砕けて粉になり、うまく排出されません。
- 5) スピンナ等、各部が回転し、肥料が散布され はじめたら、走行クラッチレバーを「入」位 置に入れ走行し、散布作業を行ってください。



※ 散布時、機体左右と中央部とで散布量にム ラができる場合は、作業を止め、エンジンを 停止させてから、散布調整板にて、中央部の 散布量を調整してください。



※ ホッパ内に肥料が残っている状態で、散布 作業を中断したい場合は、先ずシャッタを閉 じてから、すぐに作業クラッチレバーを「切」 位置にしてください。

### ※ 最大散布幅は、

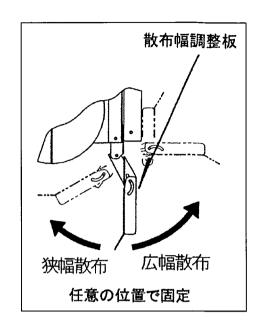
堆肥の場合………約 1.2~4m 化成肥料の場合……約 2~8m

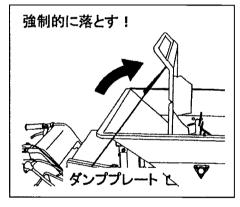
です。但し、エンジン回転数、およびその使用する肥料の状態により散布幅は多少変化します。

また、散布幅規制板を任意の角度で固定する事により、最大散布幅を上記数値範囲内で 規制する事ができます。

作業を中止し、エンジンを停止させてから 調整してください。

※ 水分を多く含んだ質の悪い堆肥を使用される場合、ホッパ内後部、角度のゆるい部分に堆肥が残ってしまうことがあります。 その場合、右図のとおりダンププレートを前方へおこし、残った堆肥を強制的にホッパ下部へ落としてください。但し、ダンププレートをストッパ以上に押し込まないでください。ストッパを破損する恐れがあります。





## 重要

●散布作業時の操作手順は必ず守ってください。

シャッタを開ける前に作業クラッチレバーを「入」位置へ入れると、場合により搬送軸がロックし、散布できない場合があります。その場合は手順に従い、シャッタを少し開けてから作業クラッチレバーを「入」位置へ入れてください。スムーズに排出されはじめ、散布作業が行えます。

●積載量、作業場所に応じた走行速(変速位置)で作業してください。 路面状況等により2速(高速)では走行できない(エンストする)場合 があります。その場合は1速にして走行、作業を行ってください。

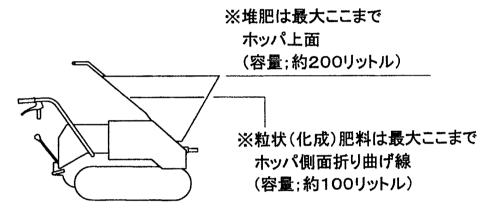
## 積載要領

### ■最大作業能力



●転倒の恐れがあります。最大作業能力以上は積載しないでくだ。 さい。

作業能力は下記の通りです。



		積込制限高さ	比 重	平坦地での 最大積載量(容量)	10°以下の坂道での 最大積載量(容量)
堆	肥	ホッパ上面 まで	約0.5 ~0.6	約120kg (200リットル)	約60kg (100リットル)
粒状肥料 (化成肥料)		ホッパ側面 折曲げ線まで	約0.8 ~1.2	約120kg (100リットル)	約60kg (50リットル)

### ■パランス

安全に効率よく作業するため、最大積載容量、および最大作業能力を厳守し、 バランスよく積載してください。

- 重要 ●やむをえず、坂道で走行する場合は、ゆっくりと低速で走行してください。
  - ●荷物を積んで走行するときには、積載量に応じてサイドクラッチレバーの 操作荷重が変わります。十分注意して走行してください。

## 点検・整備

増し締め…作業前には、各部のボルト・ナット等の緩み がないか確認し、緩み箇所は締めなおしてくだ さい。(特にエンジンおよびスピンナ・搬送軸 ・攪拌軸まわりは注意してください。)



- **▲警告** ●給油及び点検をするときは安全を確認してから行ってください。
  - ①車体を平坦な広い場所に置く。
  - ②エンジンを止める。
  - ③駐車ブレーキをかける。
- ※安全を確認せずに点検整備すると、思わぬ傷害事故を引き起こすことがあり ます。

### 〈定期点検整備箇所一覧表〉

本機を安全に使用するために、また事故を未然に防ぐために必ず点検・整備を行っ てください。

> 〇点検・整備 ◎補給 ●交換

	点 検 箇 所	項目	点 検 始業 前	時 50h 毎	期 ( 100h 毎	目 200h 毎	安 ) 300h 毎	参照ページ
	ギヤボックス	油量		0		•		46 • 47
	ブレーキシュー	摩 耗		0			•	_
本	V ベ ル ト	伸び・亀裂	0	-				48 · 49 51 · 52
体	各部ワイヤ	伸 び	0					48~50
走行	クローラ	伸び・亀裂	0					50
部	転輪(各ローラ)	グリース			0			45 • 46
	各支点部	マシン油	0					_
	操作系ロッド支点部	マシン油	0					_

### 〈定期点検整備箇所一覧表〉

〇点検・整備 ◎補給 ●交換

			点	矣 時	期(	目:	安 )	
	点検箇所	項目	始業 前	50h 毎	100h 毎	200h 毎	300h 毎	参照ページ
	各部チェン	伸 び	0					_
本体	チェンテンション	摩 耗	0					_
走	搬送軸·攪拌軸	緩み・変形	0					_
行部	スピンナ	緩み・変形	0					_
	ベベルギヤ	グリース	0	0				_
	エンジンオイル	油量・汚れ	0		•			_
ェン	ェアクリーナ	汚れ		0		•		_
ジン	点 火 プ ラ グ	汚れ・摩耗		0				
部	フューエルストレーナ	水却・目詰り		0				_
	エンジン部関係詳細に	こついては「エ	ンジン	<b>仅扱説明</b>	書」を従	甲参照く	ださい。	

- 重要 ●転輪のグリスアップは、湿田等で使用した後には必ず給脂してください。
  - ●年に一回はお求めのお買いあげ先にて点検整備を受けてください。

### ■給油

〈給油箇所一覧表〉

給		油		箇		所	油の	種 類	給油量	参照ページ
走	ギ	ヤ	ボ	ッ	ク	ス	ギヤオイル	80W-90	1. <b>4</b> ℓ	46 • 47
部	۲	ラ	ッ・	クロ	ı —	ラ	グリース	エトライトNo.1	適量	45 • 46

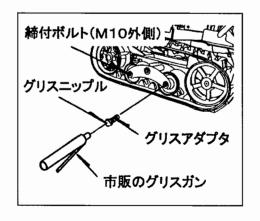
### 作業のしかた

作	スピンナ駆動用ベベルギヤ	グリース エトライトNo.1	適量	_
業	各部チェン	マシン油、またはギヤオイル	適量	_
部	散布幅調整板回動支点部	マシン油、またはギヤオイル	適量	
I	注 油 指 示 部	マシン油、またはギヤオイル	適量	_
ンジ	ェンジンオイル	ガソリンエンジンオイル SD 級以上 10W-30	0.6ℓ	47 • 48
ン	ガッリン	自動車用無鉛 レギュラーガソリン	約2.5ℓ	-
その他	各支点・回動部	マシン油、または グリース エクセライトNo.1	適量	_

- 重要 ●機体にとって潤滑油は、人の血液にも相当する大切なものです。給油を おろそかにすると、機械が円滑に動作しないばかりか、故障の原因とな り、機械の寿命を短くします。常に点検し、早めに補給、または交換し てください。
  - ●給油作業は、ゴミ・水等が入らないよう十分注意して行ってください。

### 1. トラックローラへの注油

- (1) トラックローラの締付ボルト(M10、外側) を取り外します。
- (2) かわりに同梱されているグリスアダプタを ねじ込みます。
- (3) グリスアダプタ頭頂部の注入口(グリスニッ プル)より、市販のグリスガンにてグリースを 注入してください。
  - ※トラックローラ内部からグリースがあふれ出 すまで注入してください。



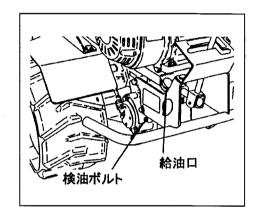
(4) グリスアダプタを取り外し、元のように締付 ボルト(M10、外側)を締付けてください。

### 2. ギヤボックスオイルの給油・交換

### ●給油

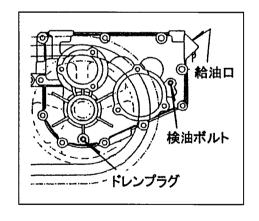
機体を水平にして給油します。

給油口のキャップを外し、ギヤボックス側面にある検油ボルトを外し、検油穴からオイルが流れ出すまで給油してください。給油が終了したら、検油ボルトを元のように締め込み、給油口のキャップを取り付けてください。



### ●交換

- (1) 機体を水平にして作業を始めます。
- (2) 給油口のキャップとギヤボックス下部のドレンプラグを外し、オイルを廃油受皿に排出します。
- (3) オイルをすべて出しきったら、オイル排出 口、およびドレンプラグの油分を完全に拭き 取り、ドレンプラグにシールテープを巻き、 元のようにしっかりと締め込みます。
- (4) 検油ボルトを外し、検油穴からオイルが流れ出すまで給油します。
- (5) 給油が終了したら、検油ボルトを元のよう に締め込み、給油口のキャップを取り付けて ください。





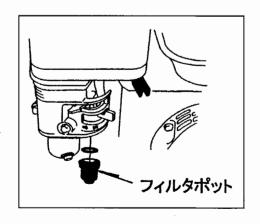
- 重要 ●廃油は廃油受皿等に取り、たれ流したりしないでください。公害のもと となります。
  - ●廃油受皿に排出したオイル内に鉄粉等が混入している場合は、ギヤの塵 耗など、ギヤボックス破損の前兆であり、ギヤボックスの分解チェック を要します。お買上げ先にご相談ください。
  - ●ギヤボックスのオイルは、路面状態など走行条件により給油口からにじ み出たり、キャップのエア抜き穴から出る場合がありますので、頻繁に 点検し、補給してください。

### ■点検と清掃

# **▲危険** ●火気厳禁

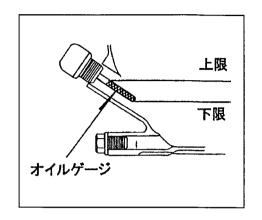
給油時は、エンジンを必ず停止してください。

- ●燃料を補給するときは、くわえたばこ等の火気は厳禁です。 引火爆発・火災の原因になります。
- (1) 燃料…自動車用無鉛レギュラーガソリン
  - ●燃料タンク内に水・ゴミ等が入らぬよう注意してください。
  - ●燃料キャップが締まっているか確認してください。
- (2) フィルタポットの清掃と交換
  - ●燃料中に含まれる水・ゴミ等がフィルタ ポット内に沈殿していないか点検します。
  - ●水・ゴミ等がたまっている場合は、フィル タポットを外し、内部をガソリンで洗浄し てください。



### (3) エンジンオイル

- ●機体を水平にして、オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき、改めて差し込んでから再び抜き「上限と下限の間」にオイルがあるか調べます。
- ●「下限」以下の場合は、給油口より「上限」まで補給してください。



### 重要 ●エンジンオイルは「上限」以上に入れないでください。

※ オイル交換、エアクリーナの清掃等エンジンの保守点検につきましては、別冊 で添付しております「エンジン取扱説明書」をお読みください。

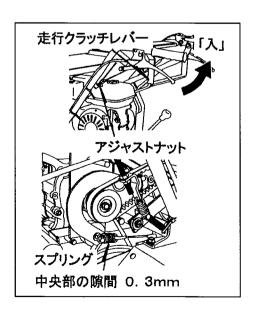
## 各部の調整

### ■走行クラッチレバーの調整

走行クラッチレバーを「入」位置にしても、 ベルトがスリップして動力の伝動が不十分な 場合は、下記の要領にて調整してください。

走行クラッチレバーを「入」位置にした状態で、スプリング中央部の隙間寸法が 0.3mm になるように、アジャストナットにて調整してください。

調整後は、確実にアジャストナットを締め 込んでください。



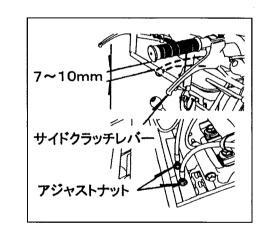
- **重要** ●走行クラッチレバーの調整が不十分な場合には、走行クラッチレバー を「入」位置にしても、ベルトがスリップして動力の伝動が悪くなり、 走行できなくなったり坂道で暴走する恐れがあります。作業前には必 ずベルトをチェックしてください。
  - ●調節代がなくなったり、Vベルトの腹の部分が接触するような場合は、 ベルトの交換が必要です。

### ■サイドクラッチレバーの調整

サイドクラッチレバーの遊び(ガタ)や作動量が大きくなり、サイドクラッチ レバーを握っても旋回しにくくなった場合には、次の要領、手順にて調整してく ださい。

- (1) 先ず、ギヤボックス内のギヤをうまく噛み あった状態(サイドクラッチレバーが深く握 り込める状態)にする為、サイドクラッチレ バーを操作しないで、2~3mほど前・後進し てから停止してください。
- (2) サイドクラッチレバーを握り、サイドクラ ッチレバー先端とハンドルグリップとの隙間 が 7~10mmになるように、アジャストナット (ギヤボックス側)にて調整します。

調整後は、確実にアジャストナットを締め 込んでください。

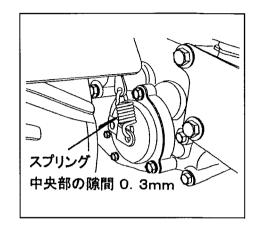


### ■ブレーキの調整

本機は、走行クラッチレバーを「切」位置側に入れると同時にブレーキが効き始める構成となっています。ブレーキの効きが弱くなったときは、下記の要領にて調整してください。

走行クラッチレバーを「切」位置にした状態で、スプリング中央部の隙間が 0.3mmになるように、アジャストナットにて調整してください。

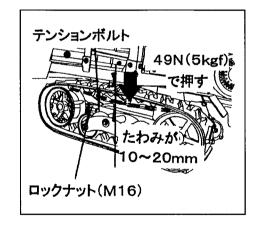
調整後は、確実にアジャストナットを締め 込んでください。



### ■クローラの張り調整

クローラの張りが初期伸びや摩耗の為にゆるんだ場合には、下記の要領にてクローラの 張り調整を行ってください。

クローラ中央部を 49N (5kgf) で押したとき、クローラのたわみが  $10\sim20mm$  になるよに、テンションボルトにて調整してください。 調整後は、確実にロックナット (M16) を締め込んでください。

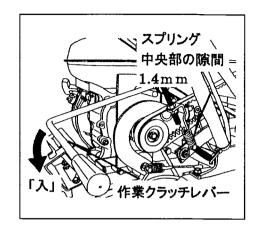


### ■作業クラッチレバーの調整

作業クラッチレバーを「入」位置にしても、 ベルトがスリップして動力の伝動が不十分な 時は、下記の要領にて調整してください。

作業クラッチレバーを「入」位置にした状態で、スプリング中央部の隙間寸法が 1.4mm になるように調整してください。

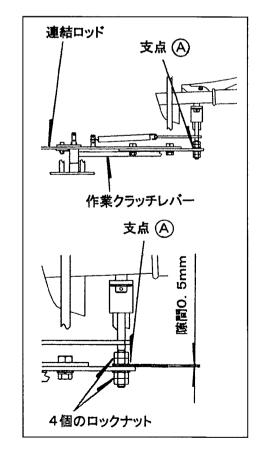
調整後は、確実にアジャストナットを締め 込んでください。



### ■走行・作業クラッチレバー連動機構の調整

走行・作業クラッチレバー連動機構は、安全 装置として確実に作動するよう工場出荷時に 調整されていますが、もし、その動きに不具合 が生じた場合には、下記の要領にて調整して ください。

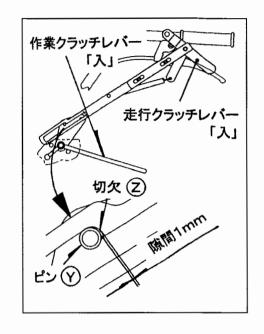
(1) 連結ロッドと作業クラッチレバーとの摺動 面が平行となり、無理なくスライドできるよ う、支点(A)の締付位置にて調整してください。 また支点(A)の部分の締め付け加減を、連結 ロッドが軽く回動する程度(隙間 0.5mm程度) に調整し、4 個のロックナットを確実に締め付け てください。



(2) 走行・作業クラッチレバー共に「入」位置の状態で、作業クラッチレバーのピン文と連結ロッドの切欠②の隙間が 1mm になるよう、連結ロッドの長さをつなぎ部にて調整してください。

この時、つなぎ合せた連結ロッドが真直ぐ になるように締め付けてください。

(3) 最後に各回動部、および摺動面にマシン油 を注油し、走行・作業クラッチレバー連動機構 が確実に作動する事を確認してください。

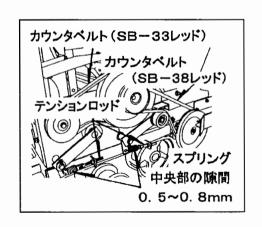


### ■カウンタベルトの張り調整

散布作業時に、カウンタベルト(2カ所)が スリップして動力の伝動が不十分な時は、下 記の要領にて調整してください。

それぞれテンションロッドにて、スプリング中央部の隙間寸法が  $0.5\sim0.8$ mmになるように調整してください。

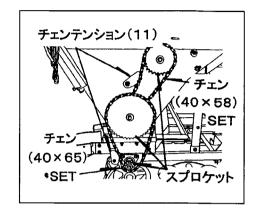
調整後は、確実にロックナットを締め込ん でください。



### ■伝動チェンの張り調整

チェンの張りが初期伸びや摩耗の為にゆる んだ場合には、チェンの張り調整を行ってく ださい。

それぞれスプロケット間の中央部でチェン のたわみが 2~3mmになるよう、テンション プレートをボルトにてしっかりと固定してく ださい。

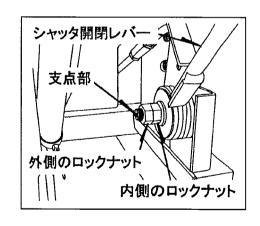


重要 ●テンションプレートの摩耗がひどくなるとチェンが張れなくなります。 この場合はテンションプレートを交換してください。

### ■シャッタ開閉レバーの動き調整

走行中の振動でシャッタ開閉レバーが動き、 シャッタ開度が変ってしまう場合は、支点部 のロックナットの締め付け具合で調整してく ださい。

必ず外側のロックナットをゆるめ、内側の ロックナットを締め込みます。(締め込みすぎ るとレバーが動かなくなるので注意してくだ さい。) 調整がずれないよう、外側のロックナ ットを確実に締め込んでください。



### ■スライドシャッタの平行度調整

スライドシャッタは、ホッパ下部排出口に対し、平行にスライドするよう工場出 荷時に調整されていますが、もしその動きに傾きが生じているようであれば、下記 の要領にて調整してください。

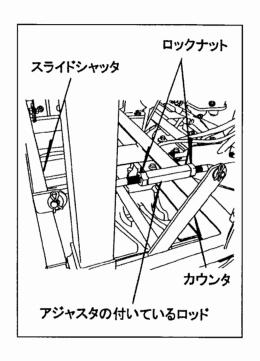
- ※平行度の調整ができていないと、均一散布ができません。
- (1) シャッタ開閉レバーを操作し、シャッタを 少し開けておきます。

(平行度を確認し易くする為)

(2) シャッタとカウンタをつなぐロッド2本の うち、アジャスタの付いている側で平行度を 調整します。

アジャスタのロックナットをゆるめロッド の長さを調整し、シャッタとホッパ下部排出 口とが平行になるよう調整してください。

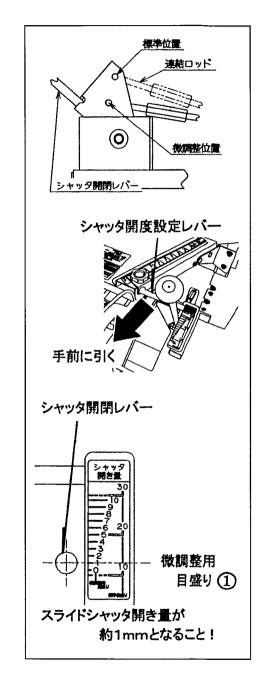
(3) 調整がずれないよう、アジャスタのロック ナットを確実に締め込んでください。



### ■スライドシャッタ開閉量の調整

シャッタ開閉レバーの動きに対するスライドシャッタの開閉量は工場出荷時に調整されていますが、もしその動きに狂いが生じていようであれば、下記の要領にて調整してください。

- (1) 先ず、シャッタ開閉レバーとカウンタをつなぐロッドの位置を微調整用穴に掛け替えます。
- (2) シャッタ開度設定レバーを手前いっぱいまでもどし、シャッタ開閉レバーの中心を微調整用目もりの①の部分へ合わせます。
- (3) この時、スライドシャッタの開き量が約 1 mm 以下となるように、アジャスタにてロッド の長さを調整します。
- (4) 調整がずれないよう、アジャスタのロック ナットを確実に締め込んでください。



# 手入れと格納

# ▲警告

●作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱 部分が完全に冷えてから行ってください。熱いうちにカバー類 をかけると、火災の原因になり大変危険です。

### ■日常の格納

日常の格納および短期間の格納は、次の要領で行ってください。

- (1) 車体はきれいに清掃しておきましょう。とくにホッパ内やスピンナ等、内部は 放置しているとサビが発生します。使用後は必ず水洗いをしてください。
- (2) 燃料タンク内防錆のため、燃料は満タンにしておいてください。
- (3) 格納はできる限り屋内にしてください。
- (4) 作業クラッチレバーは必ず「切」位置にしてください。
- (5) 走行クラッチレバーは必ず「切」位置にしてください。

## 重要 ●洗車の際は、エンジン・樹脂部品・電装品、およびマーク貼付部などに は高圧水をかけないでください。高圧水をかけると、故障の原因となっ たり、マークのはがれ、部品の変形を起こしたりします。

#### ■長期格納

長い間使用しない場合は、きれいに清掃し、次の要領で格納してください。

- (1) 車体はきれいに清掃しておきましょう。とくにホッパ内やスピンナ等、内部は 放置しているとサビが発生します。使用後は必ず水洗いをしてください。
- (2) 不具合箇所は整備してください。
- (3) エンジンオイルを新しいオイルと交換し、5分程エンジンをアイドリング回転にて運転し、各部にオイルをゆきわたらせます。
- (4) 各部の給油を必ず行ってください。

### 手入れと格納

- (5) 各部のボルト・ナットの緩みを点検し、緩んでいれば締め付けてください。
- (6) 格納場所は、周囲に紙など燃えやすいものがない、雨のかからない乾燥した場所を選んでください。
- (7) 作業クラッチレバー及び走行クラッチレバーは「切」位置にし、クローラに歯 止め(車止め)をしておいてください。
- (8) エンジン部は、燃料タンク・気化器内のガソリンを完全に抜いて格納してください。
  - ※「エンジン取扱説明書」参照

### ■長期格納後の使用

長期格納後の再使用は、特に次の内容に注意してください。

- ●始業点検を確実に行ってください。
- ●エンジンの寿命・性能を保つため、エンジン始動後はアイドリング回転で5分程、 運転してください。

# 不調時の対応のしかた

### ■走行部

故 障 状 況	原 因	処 置	参照ページ
走行クラッチ レバーを「入」	●走行ベルトのスリップ	●走行クラッチレバーの 調整	48 • 49
位置にしても 走らない		●走行ベルトの交換	*
	●サイドクラッチの抜け	●サイドクラッチレバーの 調整	49
走行クラッチ レバーを「切」	●走行ベルトのつき回り	<ul><li>●走行クラッチレバーの 調整</li></ul>	48 • 49
位置にしても止まらない	OZII WYOO	●ベルトストッパの調整	*
	●ブレーキシューの摩耗	●ブレーキの調整	50
		●ブレーキシューの交換	*
サイドクラッ チレバーを握	●サイドクラッチケーブルの 緩み	●サイドクラッチレバーの 調整	49
っても旋回し ない	●走行ベルトのスリップ	●走行クラッチレバーの 調整	48 • 49
		●走行ベルトの交換	*
	●クローラの緩み	●クローラの張り調整	50

### ■エンジン部

故	障	状	況	原 因	処 置	参照ページ
				●始動操作不良	●正しい手順にて始動	27 • 28
				●燃料コックが開いていない	●燃料コックを開ける	27
始	動	困	難	<ul><li>●走行クラッチレバー、及び 作業クラッチレバーが「入」 位置になっている</li></ul>		21 · 22
				●緊急停止スイッチが「停止」 位置になっている	●緊急停止スイッチを「運 転」位置にする	25

### 不調時の対応のしかた

故 障 状 況	原因	処 置	参照ページ
エンジン回転 が不規則であ る	●燃料フィルタのつまり	●フィルタの清掃または 交換	47
<i>•</i>	●ホース系の燃料もれまた はエアー混入	●クランプ締付けまたは ホース交換	*
	●点火プラグの不良	●点火プラグの清掃または 交換	エンジン取説
	●気化器のつまり	●サービス工場で清掃また は交換	*
エンジンを低 速にすると停	●点火プラグの不良	●修理または交換	エンジン成説
止する	●気化器のつまりおよび 調整不良	●気化器の清掃または交換	*
	●スロットル調整不良	●スロットルの調整	*
運転中に突然、 エンジンが停	●燃料不足	●燃料補給	エンジン取説
止した	●エンジンオイル不足	●エンジンオイルの補給	エンジン取説
	●オイル不足または潤滑不 良によるエンジン焼付	●エンジンの修理または 交換	*
	●プラグキャップの緩み	●プラグキャップを正しく 取付ける	エンジン取説
マフラから異 常な煙がでる	●エアクリーナのつまり	●エレメントの清掃または 交換	エンジン取説
	●エンジンオイル量が多い	●点検し適正量にする	エンジン取説
	●燃料供給量不良	●気化器の調整	*
	●燃料がよくない	●正規の燃料に入れ換える	エンジン取説
ェンジン出力 不足	●積載量が多すぎる	●積載量を減らす	42
	●気化器の調整不良	●気化器の調整	*
	●点火プラグ不良	<ul><li>●点火プラグの清掃または</li><li>交換</li></ul>	エンジン取説
	●エンジンオイル量の不適	<ul><li>●エンジンオイル量を点検 し適正量にする。</li></ul>	エンジン取説

### 不調時の対応のしかた

故障状況	原因	処 置	参照ページ
ェンジン出力 不足	●エアクリーナのつまり	●エレメントの清掃また は交換	エンジン取説
	●エンジンオイルが汚れて いる	●エンジンオイルの交換	エンジン取説
	●タンクキャップの空気穴のつまり	●空気穴の清掃	エンジン取説
	●エンジン本体の不具合	●エンジンの修理または 交換	*
	●エンジンの過熱	●小休止	_
	●エンソンの過熱	●吸気部の清掃	エンジン取説

### ■作業部

故 障 状 況	原因	処 置	参照ページ
作業クラッチレ バーを「入」 位置	●作業クラッチベルトのス	●作業クラッチレバーの 調整	51
トレても、スピン ナ・搬送軸・攪拌	リップ	●作業クラッチベルトの 交換	*
軸が回転しない	●カウンタベルトのスリップ	<ul><li>●カウンタベルトの張り調整</li><li>●カウンタベルトの交換</li></ul>	*
合も含む)   	●スピンナ・搬送軸・攪拌 軸への異物のカミ込み	●異物の除去	_
	●過積載	●積載量を減らす	42
作業クラッチレバーを「切」位置にしても、スピン	●作業クラッチベルトのつ	●作業クラッチレバーの 調整	51
ナ・搬送軸・攪拌 軸が回転しつづける	き回り	●作業クラッチベルトの 交換	*
ス ライド シャッタ が 開 か ない、または閉ま	<ul><li>シャッタ開閉レバー支点 部ロックナットの締め付 すぎ</li></ul>	●シャッタ開閉レバーの 動き調整	53
らない	●ホッパ下面とスライドシャッタのクリアランス不足	●ホッパ下面とスライド シャッタのクリアラン ス調整	*
	●ホッパ下面、もしくは スライドシャッタの変形	●ホッパ、もしくはスライ ドシャッタの交換	*

●参照ページの欄に※マークがある項目については、お買い上げ先へご相談ください。

# 農作業を安全におこなうために

農林水産省より、安全に農作業に従事できるように、農業機械を使用するときの注意事項が「農作業安全基準」として定められています。ここに、ホイル型運搬車を使用される方のために、特に重要な項目を「農作業安全基準」より抜粋しております。熟読の上、事故のない楽しい農作業のためにお役立てください。

### 一般共通事項

### (1) 適用範囲

一般共通事項は、農業機械を使用して行う作業に従事する者が農作業の安全を確保するため注意すべき事項を示すものである。

### (2) 就業条件

### ①安全作業の心得

農業機械を使用して行う作業(以下、「機械作業」という)に従事する者は機械の 操作の熟練に努め、自己の安全を図ると共に、補助作業者及び他人に危害を及ぼさな いように、機械を正しく運転することに努めること。

#### ②就業者の条件

次に該当する者は、危険を伴う機械作業に従事しないこと。

- ●精神病者
- ●酒気をおびた者
- ●若年者
- ●未熟練者
- ●過労・病気・薬物の影響その他の理由により正常な運転操作ができない者。

激しい作業が続く場合には、特に健康に留意し、適当な休憩と睡眠をとること。 妊娠中の者は、振動を伴う機械作業に従事しないこと。

#### ③特殊温湿度環境下の安全

暑熱、寒冷及び高湿の環境における作業に際しては、安全を確保するため作業時間 及び方法等を十分に検討すること。

#### (3) 子供に対する安全配慮

機械には、子供を同乗させないこと。また、機械には子供を近寄らせないよう注意すること。

### (4) 安全のための機械管理

### ① 日常の点検整備

農業機械は、使用の前後に日常の点検整備を行い、常に機械を安全な状態に保つこと。

### ②防護装置の点検

- ●機械作業に従事する者は、機械の操縦装置、制動装置、防護装置等危険防止のために必要な装置を点検整備して常に正常な機能が発揮できるようにしておくこと。
- ●機械に取り付けられた防護装置等を機械の点検整備または修理等のために取り外した場合は、必ず復元しておくこと。

### ③掲げ装置の落下の防止

作業機を上げた位置で点検調整等を行う場合には、ロック装置のあるものについて、 必ずこれを使用し、かつ、ロック装置の有無にかかわらず作業機について落下防止の 措置を講じること。

### ④整備工具の管理

点検整備に必要な工具類を適正に管理し、正しく利用すること。

### (5) 火災・爆発の防止

### ①引火・爆発物の取り扱い

引火または、爆発の恐れのある物質の貯蔵・補給等にあたってはその取り扱いを適正にすること。特に火気を厳禁すること。

#### ②火災予防の措置

火災の恐れがある作業場所には、消火器を備え、喫煙場所を決める等火災予防の措置を講じること。

### (6) 服装および保護具の使用

次の農作業に際しては、適正な服装および保護具を用い、危険のないよう作業に従 事すること。

### ①頭の傷害防止の措置

機械からの墜落及び、落下物の恐れの大きい場合、交通頻繁な道路での運行の場合等では、頭部保護のために適正な保護具を用いること。

#### ②巻き込まれによる傷害防止の措置

原動機若しくは動力伝動装置のある作業機または駆動する作業機を使用する場合には、衣服の一部、頭髪、手拭き等が巻き込まれないように適正な帽子および、作業衣等を使用すること。

### 農作業を安全におこなうために

### ③足の傷害及びスリップ防止の措置

機械作業において、作業機等の落下、土礫の飛散、踏付け、踏抜き及びスリップ等の恐れのある場合は、これらの事故を防止するために適正な履物を用いること。

### ④粉じん及び有害ガスに対する措置

多量の粉じん及び有害ガスが発生する作業にあっては、粉じん及び有害ガスによる 危害防止のための適正な保護具を使用すること。

### ⑤農薬に対する措置

防除作業においては、呼吸器、眼、皮膚等からの農薬による障害防止のために適正な保護具(保護衣を含む)を使用すること。

### ⑥激しい騒音に対する措置

激しい騒音の伴う作業にあっては、耳を保護するための適正な保護具を使用すること。

### ⑦保護具の取り扱い

安全保護具を常に正常な機能を有するように点検し、正しく使用すること。

## 移動機械共通事項

### (1) 適用範囲

移動機械共通事項は、地上を移動しながら作業するトラクターその他の移動機械を 使用して行う作業に従事する者が注意すべき事項を示すものである。

### (2) 作業前の注意事項

- ①機械の点検整備
  - ●機械の点検整備を十分行い、その使用にあたっては、常に安全を確保すること。
  - ●機械の点検整備、手入れ及び作業機の装着等は、交通の危険がなく平坦である等、 安全な場所でかつ安全な方法で確実に行うこと。特に、屋内で内燃機関を運転し ながら点検整備等を行う場合は、換気に注意すること。
- ②防護装置の保全
  - ●機械に取り付けられた防護装置は、常に有効に作用する状態に保っておくこと。
  - ●機械の点検整備等のために防護装置を取り外した場合は、必ず復元し、その機能を十分に発揮できるようにしておくこと。
- ③悪条件下における作業

土地条件、気象条件等により機械作業に対する条件がよくない場合の作業については、実施の判断、作業方法及び装備の選択等に注意すること。

### (3) 作業中の注意事項

- ①乗車等の禁止
  - ●機械作業中は、作業関係者以外の者を機械に近寄らせないこと。
- ②前方及び後方の安全確認
  - ●運転中または作業中は、常に機械の周囲に注意し、安全を確認すること。特に、 発進時に注意すること。
- ③転倒落下の防止
  - ●圃場への出入り、溝また畦畔の横断、軟弱地の通過等に際しては、機械の転落を 防ぐために、特に注意すること。
  - ●機械の積み降ろしに際しては、機械の転倒及び落下を防ぐための適切な措置を講 じ、十分注意して行うこと。

### 農作業を安全におこなうために

### ④傷害の防止

- ●動力伝動装置・回転部等の危険な部分には、作業中接触しないように注意すること。
- 刃または鋭利な突起を有する機械で作業を行う場合は、傷害防止のために特に注意すること。

### ⑤道路走行の安全

- ●道路走行にあたっては、関係法規を守り、安全に運転すること。
- ●道路走行にあたっては、他の自動車走行の妨げとならないように留意すること。
- ●刃物または鋭利な突起物を有する機械を道路走行させる場合は、おおいをつける かまたはこれを取り外す為、特に障害防止のため注意すること。
- ●悪条件の道路での高速運転の禁止凹凸のはげしい道路、曲折のはげしい道路等においては、高速で運転しないこと。
- ●坂道における安全確保 降坂時は、必ずエンジンブレーキを用いること。また、操向クラッチを使用しないこと。登坂時における発進では、前輪の浮上りに注意すること。

### ⑥夜間における安全

夜間作業においては、とくに安全に注意し、的確な照明を行うこと。 夜間給油を行う場合は、裸火等を使用せず、安全な照明のもとで安全かつ確実に給油すること。

### ⑦作業中の点検調整等における安全措置

機械の点検調整は、必ず原動機を止め、安全な状態で行うこと。

休けい等で機械を離れる場合は、機械を安定した場所におき、作業機を下し、かつ、 安全な停止状態を保つように注意すること。やむを得ず傾斜地に機械を置く場合は、 さらに車止めを施して、自然発車等の危険が生じないように注意すること。

### (4) 終業後の注意事項

### ①終業後の点検整備

作業終業後は、必ず次の作業のため機械の点検整備を行うこと。

### ②作業機のとりはずし

作業機のとりはずしは平坦な場所等の安全な場所で、かつ、安全な方法で確実に行うこと。とくに夜間の作業機のとりはずしは、安全で適切な照明を用い安全に留意して行うこと。

#### ③機械の安全管理

作業終了後は、作業機をはずし、または降ろし、機械を安定した場所に置き、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。

また、危険と思われる機械は、格納庫に保管するかおおいをかけるなどして安全な 状態におくこと。

# サービス資料

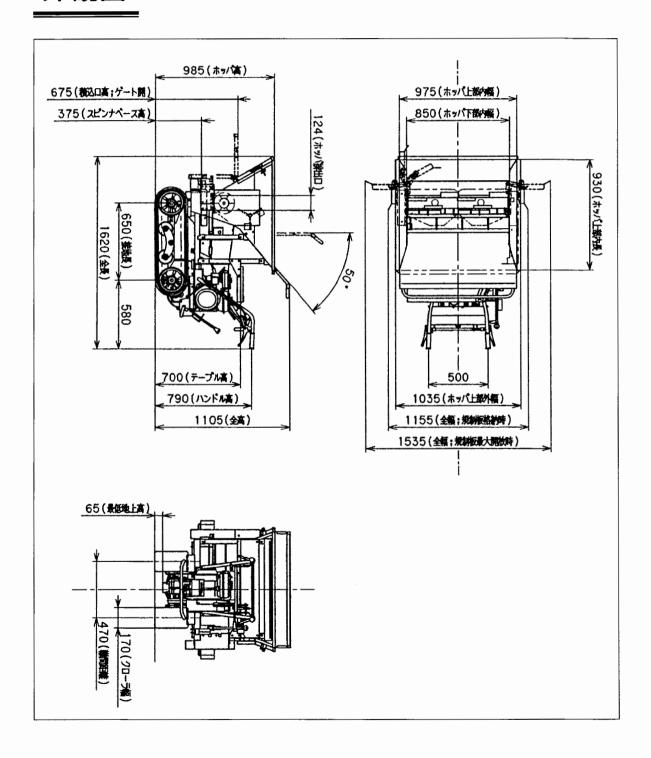
# 主要諸元

		名	称		小型堆肥散布車
		型	式		M 2 0 0 B
		質 量		(kg)	2 5 5
機		全 長	Ę	(mm)	1620
機体寸法		全 帽		(mm)	規制板最大開放時;1535 規制板格納時;1155
法		全 篇		(mm)	1 1 0 5
		最低地上高	5	(mm)	6 5
最	大	: 作業能	力	(kg)	1 2 0
最	上小	回 転 半	- 径	(mm)	1 3 5 0
	ホ	長×幅×高(最	是上部内、	†) (mm)	930×975×985
	   •y	最大積載容量	量 (m³)		0. 21
	パ		標	準	0~124
		排出口開閉量 (mm)	■ 微:	量排出	0~ 70
	寸	(111111)	位 置	置切換時	0~ 70
	法	積 込 口	高さ	(mm)	675 ※ゲート開時寸法
散	ス	スピン	ナ径	(mm)	3 7 0
	ピレ	スピン	ナ数		2個装備
布	ナーオー	回転方	向		外回転
	法	スピンナヘ	ベース高	(mm)	3 7 5
幅		積 込 方:	式		スコップ等による手積み
		肥料送	出した	7 式	自重落下式、及び2段2軸(攪拌用・搬送用)による強制排出方式併用
		適応肥	<b>*</b> *		乾燥完熟堆肥(バーク・牛糞・鶏糞;水分含有率 60%以下)、粒状化成肥料。 その他詳細は、35ページ「散布適合肥料について」を参照。
	散布	乾燥完熟	热堆 肥	(m)	約1.2~4 ※条件により異なる
	幅	粒状化,	成肥米	(m)	約2~8 ※条件により異なる

### サービス資料

		走	行	形					芯金なしゴムクローラ		
	操向形式								サイドクラッチ(爪)		
	ブレーキ形式					形:	式		内拡式(Φ62)		
走	クローラサイズ 幅(mm)×ピッチ(mm)×リンク数								1 7 0 × 7 2 × 2 8		
		轍	間	距	離	(mr	(mm)		4 7 0		
行		接	地	長		(mr	n)		6 5 0		
		離	坂	角	度	(°	)		3 8		
部		変	速	段	数				前進;2段 後進;2段		
				前	進	1	į	Ē	2. 1		
	走行	速		FI)	進	2	逐	Ē	4. 1		
	(kr	(km/h)		後	進	1	迃	Ē	1. 5		
				1女	進	2	逗	Ē	3. 0		
	種		類		•	型		式	空冷 4 サイクル傾斜型 OHV ガソリンエンジン ホンダ GX120SJ		
」エ	定格(最大)出力 (kw/min <sup>-1</sup> )						min	<sup>-1</sup> )	2. 9/4000		
ン	最	最大トルク (N・m/min <sup>-1</sup> )						1)	7. 4/2800		
ジ	総	排象	₹量				( c	c)	1 1 8		
ン	燃	燃料(タンク容量) [リットル]					[IJუ	<b>トル</b> ]	自動車用無鉛ガソリン(約2.5)		
			始	動	装	備			リコイルスタータ		
	完熟乾燥堆肥					堆肥			シャッタ開度30mmに設定時約13分(積込時間は除く) ※各種条件、当日気温・湿度により異なる。		
	0 (牛糞;水分含有率50%)					有率 5	09	6)			
作者							布時	Ē	※前進1速での走行時。		
作業能率	りの	粒状化成肥料							約5分(積込時間は除く) ※総走行距離のみで計算。散布量は都度設定。 ※各種条件、当日気温・湿度により異なる。 ※前進1速での走行時。		

## 外観図



## 注文部品の紹介

注文部品のご注文の際は、お買上げいただきま した販売店にご注文ください。

部 品 番 号	部品名称 部品の説明
0550 500 000	完熟乾燥堆肥満積載時、
0552-500-200-	マシワク SET 移動中のこぼれを防止します。
	バケットシート (ウシロ) カスのカール の名の 地間の付着防止し、
0552-500-210-	SET ある程度水分の多い堆肥を使用する
	3~ │場合でも、排出をし易くします。

## 主な消耗品

消耗部品のご注文は、部品番号をお確かめの上、 お買上げいただきました販売店にご注文ください。

部品番号	部品名称	使 用 箇 所
0331-510-013-	ベルト (Vコグ A033)	エンジンプーリ ←→ ミッションプーリ
0661-221-014-	ベルト (Vコグ B045)	エンジンプーリ ←→カウンタプーリ①
V817-200-033-	Vベルト (SB-33レッド)	カウンタプーリ① ←→カウンタプーリ②
V817-200-038-	Vベルト (SB-38レッド)	カウンタプーリ② <> スピンナ入力プーリ
0552-542-220-	チェン (40×65) SET	搬送軸駆動部
0552-542-230-	チェン (40×58) SET	攪拌軸駆動部
0660-520-017-	チェンテンション(1 1)	搬送軸·攪拌軸駆動部
0552-521-051-	スラシゴム	ホッパ内、シャッタ摺動部
0337-350-011-	クローラY170×28×72	走行部
0552-541-014-	ホース (8×16×115)	攪拌軸攪拌部(10箇所)

重要 ●攪拌軸のホース(8×16×115)はゴム製ですので、長期間使用 していると、摩耗し切れる場合があります。切れると攪拌性能が極端 に落ちますので、切れる前(3~4年毎)の交換をお勧めします。

# 索引

あ	安全表示ラベルの注意・・・・・	3	さ	最大作業能力・・・・・・・・・	42
	安全のための機械管理・・・・・	62		サイドクラッチレバー・・・・	21
	安全表示ラベル貼付位置・・・・	3 <b>~</b> 5		サイドクラッチレバーの	
	安全のポイント・・・・・・・・・・	6~17		調整・・・・・・	49
	安全な作業をするために・・・・	6		坂道での運転・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33 - 34
	移動機械共通事項 · · · · · · · ·	64 • 65		作業クラッチレバー・・・・・	22
	一般共通事項	61~63		作業クラッチレバーの	
	運転者の条件・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6		調整・・・・・	51
	運転操作の要領・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27~34		作業中は・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13 - 14
	エンジンオイル・・・・・・・	48		作業中の注意事項・・・・・・	64 - 65
	エンジンの始動・・・・・・・・・・	27 - 28		作業のしかた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	27 <b>~</b> 55
	エンジンの始動と発進は・・・・	8		作業の準備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	26
	エンジンの停止・・・・・・・・	29 • 30		作業部・・・・・・・・・・・・・・・・	60
	エンジン部・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	58 <b>~</b> 60		作業前の注意事項・・・・・・	64
	主な消耗品・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	69		サービス資料・・・・・・・・・	66~69
				サービスネット・・・・・・	18
				作業を開始する前に・・・・・	7
				散布調整板・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24
				散布適合肥料について・・・・	35
				散布幅調整板・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24
か	外観図・・・・・・・	68		始業点検・・・・・・・・・・・	26
	カウンタベルトの張り調整・・	52		シャッタ開度設定レバー・・	23
	各部の調整・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	48~55		シャッタ開閉レバー・・・・・	23
	# 4n - h Tt	40		シャッタ開閉レバーの	
	各部の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19		動き調整・・・・・	53
	各部の名称とはたらき・・・・・	19~25		就業後の注意事項・・・・・・	65
	火災・爆発の防止・・・・・・・	62		就業条件・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	61
	ギャボックスオイルの	40 47		主要諸元・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	66 - 67
	給油・交換・・・・・・	46 - 47		重要安全ポイントに	0
	給油	44~47		ついて・・・・・	2
	給油箇所一覧表・・・・・・・・・	44 • 45		新車の保証・・・・・・・・・・	18
	クローラの張り調整・・・・・・	50		スライドシャッタの	C.4
	子供に対する安全配慮・・・・・	61		平行度調整・・・・・	54
	ゴムクローラへの注意・・・・・	32		スライドシャッタの	r.
				開閉量の調整・・・・・	55
				スロットルレバー····・・ 積載要領·····・	20 42
				傾戦妄頓・・・・・・・・・・・・・  走行・作業クラッチレバー	42
				走行・15条クラッテレハー   連動機構の調整・・・・・・	51 - 52
				連動機構の調整・・・・・・   走行クラッチレバー・・・・・	21
- 1				左   フ ノ フ ナ レ ハ 一・・・・・	41

さ	走行クラッチレバーの調整	48 • 49	は	バランス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	42
	走行するときは・・・・・・・・・・	8~11		肥料の散布のしかた・・・・・	38~41
	走行部・・・・・・	58		肥料の積込・散布要領・・・・・	36~41
	操作レバーの名称と			肥料の積込のしかた・・・・・	36
	はたらき・・・・・	20~23		フィルタポットの	
	その他走行時の注意・・・・・・	34		清掃と交換・・・・・	47
	その他の部分の名称と			服装および保護具の使用・・	62 • 63
	はたらき・・・・・・	24 - 25		袋入り肥料の積込み方・・・・	37 - 38
				不調時の対応のしかた・・・・	58 <b>~</b> 60
				ブレーキの調整・・・・・・・・	50
				変速レバー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	20
た				保管・格納は・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16 • 17
	ダンププレート・・・・・・	24		補修用部品供給年限に	
	注文部品の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	69		ついて・・・・・	18
	積込み・積降ろし・・・・・・	11 • 12		保証とサービス・・・・・・・・	18
	停車・駐車・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31		FUELゲート・・・・・・・・	25
	手入れと格納・・・・・・・・・・	56 • 57			
	長期格納・・・・・・・・・・・・・・・	56			
	長期格納後の使用・・・・・・・・	57			
	定期点検整備箇所一覧表・・・・	43 • 44			
	適用範囲・・・・・・・・・・・・・・・・・・	61 • 64	ま	目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	点検と清掃⋯⋯⋯⋯⋯	47 • 48			
	点検・整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	43~48			
	点検整備は・・・・・・・・・・・・・・・	15 • 16			
	<b>伝動チェンの張り調整・・・・・</b>	53			
	トラックローラへの注油・・・・	45 • 46			
な					
	日常の格納・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	56			
	燃料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	47			
	農作業を安全に	04 05			
	•= - • • • • • • •	61~65			
	野積み堆肥の積込み方・・・・・	36 · 37			

販売店		
住所 〒 -		
TEL	 	
担当;		

までご連絡ください。

型	式	
製造都	号	

※ご使用になる前にメモしておくと、万一、修理の依頼をされるときに役立ちます。

# 豊かさを創造し、未来へ挑戦する 株式会社アテックス

本 社	愛媛県松山市衣山1丁目2-5	₹791-8524
	TEL (089) 924-7161 (代) FAX (089) 925-0771	
	TEL(089)924-7162(営業直通)	
	ホームページ http://www.atexnet.co.jp/	
東北営業所	岩手県紫波郡矢巾町広宮沢第 11 地割北川 505 - 1	₹028-3601
	TEL (019) 697-0220 (代) FAX (019) 697-0221	
関 東 支 店	茨城県猿島郡五霞町元栗橋6633	₹306-0313
	TEL (0280) 84-4231 (代) FAX (0280) 84-4233	
中部営業所	岐阜県大垣市本今5丁目128	₹503-0931
	TEL (0584) 89-8141 (代) FAX (0584) 89-8155	
中四国支店	愛媛県松山市衣山1丁目2-5	₹791-8524
	TEL (089) 924-7162 FAX (089) 925-0771	
九州営業所	熊本県菊池郡菊陽町大字原水1262-1	₹869-1102
	TEL (096) 292-3076 (代) FAX (096) 292-3423	
部品センター	愛媛県松山市馬木町899-6	₹799-2655
	TEL (089) 979-5910 (代) FAX (089) 979-5950	

部品コード

0552-942-012-0